

■一般目標

川崎病は小児に特有の原因不明の全身性の血管炎であり、小児医であれば誰もが経験する common disease の 1 つである。日本では年間 16,000 人以上が新規に発症し、約 8%に冠動脈病変を含めた何らかの後遺症を残す。特に巨大冠動脈瘤は生涯に渡っての後遺症となり、患者の QOL の低下や急性冠症候群のハイリスクとなる。我々は、川崎病による後遺症を減らすべく、適切な診断、治療、冠動脈評価を行い、また原因究明、新規治療の開発を行わなければならない。その中心となりうる人材の育成を行うことが目標である。

■当院の特徴

当院は川崎病疑い症例・転院症例を含めると年間 200 名程度の新規患者が来院される。全例、総合診療科が主治医となり、治療方針の立案、心臓超音波検査を実施する。難治症例や巨大冠動脈瘤合併症例では、循環器科、集中治療科と連携をとり、治療にあたる。転院例を含めた難治症例では、急性期の対応が患者の後遺症と直結するため、迅速に適切な診断・治療を実施しなければならない。また研究面では、併設された研究所、臨床研究センターにて、川崎病の原因究明、新規治療の開発、また多施設との共同研究を多数実施している。

総合診療科が各診療科、研究所のハブとして、臨床・研究の中心に立ち、患者により良い医療を提供できるように高度医療機関として、世界に発信していく必要がある。

■各論：獲得目標

一般的対応

- ・ 川崎病の病態を理解し、適切な治療を行うことができる
- ・ 心臓超音波検査で冠動脈病変を適切に評価することができる
- ・ 川崎病に関連する RQ を持ち、研究活動を行い、発表、論文化を行う

臨床

- ・ 川崎病の診断および川崎病と類似する感染症を理解し、適切に鑑別することができる
- ・ 川崎病の治療をそれぞれ理解し、その適応・副作用を理解し治療することができる
- ・ 心臓超音波検査で冠動脈病変を適切に評価ことができ、冠動脈 MRI 検査・冠動脈造影検査の適応および循環器科へのコンサルトを実施することができる

- ・ 川崎病罹患後のフォローアップを理解し、川崎病外来を行うことができる
- ・ ワーファリンの適応、投与量、管理を行うことができる
- ・ 川崎病の転院例を受け、患者の経過にあった治療方針を立案することができる

研究

- ・ 難治性川崎病の診断とバイオマーカーの開発の研究を理解し、検体の同意・採取を実施できる
- ・ 多施設共同研究（遺伝コンソーシアム、PEACOCK、KIDCAR）を理解し、実施することができる
- ・ 川崎病全国調査を理解し、調査に協力することができる

■ 関連学会

- ・ 日本小児科学会総会
- ・ 日本川崎病学会学術集会
- ・ 関東川崎病研究会
- ・ 日本小児循環器学会総会
- ・ PAS meeting